

神の子

知っておきたいキリスト教のことば (42)

「神の子」とは、イエス様の称号の一つです。イエス様は弟子たちや人々からダビデの子や主、先生、またキリストと呼ばれていました。そして悪霊や汚れた霊からは、「神の子」と呼ばれることもありました。さらに十字架上で息を引き取られた時には、異邦人である百人隊長から「本当に、この人は神の子だった」と言われます。

イエス様は聖書の中で、ご自分のことを「人の子」と言うことはあっても、「神の子」だとは言いません。しかし神さまのことを「アッバ、父」と呼んでいる箇所があります。ということは、神さまとイエス様とは、親子の関係であるということが言えます。

旧約聖書の中にも、神の子と言われる人たちは出てきます。イスラエル国家やダビデ、また王たちはそのように呼ばれます。しかしイエス様が来られたことによって、その称号はイエス様一人のものになったようにも思えます。



しかしパウロはガラテヤの信徒への手紙の中でこのように書きます。

「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。」(ガラテヤの信徒への手紙 3 章 26 節)

神の子とは、神さまと一緒に神さまのみ心を行う人たちのことです。であるならば、わたしたち一人ひとりも、間違いなく神の子なのです。

イエス様は祈る時には、「父よ」という呼びかけをするようにと教えられました。わたしたちは神さまの子として、神さまのご用をおこなうように、それぞれの場所に遣わされています。そのことを忘れないようにしたいですね。

そして神さまは、わたしたちを大切な子どもとしていつも見守ってくださることを、あわせておぼえていきたいと思います。

次回は「神の小羊」です。お楽しみに。